

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	北4西3地区第一種市街地再開発事業(南棟)新築工事	階数	地上33階、地下5階		
建設地	北海道札幌市中央区北四条西三丁目5番	構造	S造		
用途地域	商業地域	平均居住人員	6,400 人		
地域区分	2地域	年間使用時間	2,250 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所,飲食店,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2028年7月 予定	評価の実施日	2025年1月30日		
敷地面積	5,328 m ²	作成者	鹿島建設株式会社		
建築面積	4,755 m ²	確認日	2025年1月30日		
延床面積	128,270 m ²	確認者	鹿島建設株式会社		
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE =1.8 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★ C: ★ 環境品質 G 環境負荷 L		標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです		Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境	
2-4 中項目の評価(バーチャート)					
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.8 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境		Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.3 機能性 耐用性 対応性		Q のスコア= 4.0 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.0 生物環境 まちなみ 地域性・	
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.7 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的		LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 4.0 水資源 非再生材料の 汚染物質		LR のスコア= 3.3 LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.3 地球温暖化 地域環境 周辺環境	
3 設計上の配慮事項					
総合				その他	
交通結節点として各交通機能の利便性を高めるため、地下鉄機能の強化及び各種交通機能の乗り換え動線強化を図るとともに、国内外から札幌都心への多様な人々の誘因と賑わい・交流の促進に向けて、魅力ある都市景観・都市空間の整備、環境や防災性に配慮した都市機能の集積を行い、札幌の国際競争力強化に資する拠点を形成する。					
Q1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境(敷地内)	
・開口部は遮音性が高いものを使用している。 ・ダブルスキンや断熱性の高い建材を採用し、外部からの熱的侵入を抑制している。		・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上を図っている。 ・建物内部の空間形状の自由度が高く、対応性・更新性に配慮している。		・歩道に面する敷地外周部ではセットバックして建物を配置し緑地を設け、沿道の街路樹との一体的な修景をつくりだすような計画とした。	
LR1 エネルギー		LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境	
・Low-Eペアガラスを採用した断熱カーテンウォールにより、断熱性の高い開口部を持つ外壁とした。 ・外気温度の低い地域特性を踏まえた全熱交換器の採用やDHCの有効利用により省エネに配慮した計画とした。		・衛生器具には節水器具を採用し、雑用水として井水も利用する計画とした。		・駐車場の入口はIN・OUTを分け車路幅を広く確保することで車両の出入りを円滑にし、周辺道路への渋滞緩和に寄与している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される